
序 文

尿沈渣と疾患の関連性を体感し、鏡検のレベルアップを

下澤達雄(国際医療福祉大学医学部臨床検査医学講座)

宿谷賢一(東京大学医学部附属病院検査部)

医療費の抑制策また高齢化が進む現在の医療環境は、簡便・迅速・低コストかつ患者に対して非侵襲的である尿検査を有効活用する意義は大きくなっています。特に尿沈渣検査は、腎・尿路系の疾患のスクリーニング検査として意義は高く、より多くの付加価値情報を臨床に提示できると考えています。

尿沈渣検査による典型的な尿路の腫瘍細胞の鑑別能力は、日本臨床衛生検査技師会主催の外部精度管理調査のフォトサーベイの報告から証明されており、国内の臨床検査機関の約3,000施設のうち、8割以上の施設で鑑別が可能です。今日の尿沈渣検査は、スクリーニング検査の目的以上の検査結果を臨床へ提供可能な施設もあり、尿沈渣検査の鑑別技術の向上が裏付けられていると言えます。しかしながら、臨床の場において腎・尿路系疾患の診断と治療における尿沈渣検査の意義付けが明確にされていない部分もあり、臨床との関連性を明確にする必要があります。

本書では、尿沈渣検査に関係がある検査、処置・手術、疾患の基礎的な知識を解説し、さらに、チャート図と尿沈渣成分の写真によって典型的な事項について提示・解説しました。さらに、鏡検によって見えた成分のみ算定する検査法から、患者情報、臨床検査結果、尿沈渣成分から総合的に判断し、さらに必要不可欠な成分を探し出す検査法を習得できる内容に構成しています。

このチャート図の作成にあたっては、山下美香先生(広島赤十字・原爆病院検査部)、吉永治代先生(近畿大学医学部堺病院 SRL 検査室)、脇田満先生(順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床検査部)、山本紀子先生(熊本大学医学部附属病院検査部)、横山千恵先生(筑波大学附属病院検査部)の度重なる校正を短時間で対応していただきました。また、多くの写真は東京大学医学部附属病院検査部一般検査室のスタッフの日々の努力によるものです。

本書により、尿沈渣成分と疾患の関連性を体感し、鏡検のレベルアップにつながることを願っています。

最後に、ご多忙中にもかかわらず本書の発刊にあたりご執筆をいただきました諸先生に心から感謝申し上げます。
